

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		一般小売店〔カメラ〕 （店長）	・例年より雪の量が少なく早めの春が予想されるとともに、新製品の発売予定があるため現状よりは良くなる。また、展示会での人も見込まれる。
		コンビニ（経営者）	・今後は来客数が増加する時期でもあるが、客単価も徐々に上昇している。
		高級レストラン（支配人）	・同業他社が営業を止めるとの話もあり、その客が当店に流れてくる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・歓送迎会の時期を迎えるが、前年と違い大きな選挙が無いことから、前年よりは良くなる。
	変わらない	住宅販売会社（従業員）	・年明けのイベントでの集客が、順調に受注につながる見通しが立っている。
		商店街（代表者）	・季節的には暖房費が軽減されてくるが、中国産食材への不信感により割高な国産食材へ切替える動きもあり、それがコストアップ要因ともなるため消費行動の改善にはつながらない。
		一般小売店〔医薬品〕 （経営者）	・天候が良くなったとしても日常の生活費がすぐに安くなるわけでもなく、新入学などのお祝い事が増える時期でもあり、しばらくは低迷した状態が続く。
		百貨店（経営者）	・衣料品の動きが非常に悪く、また客単価の低下も顕著になっている。今後の3か月を見通しても回復する材料が全然見当たらない。
		百貨店（経営者）	・天候以外に客の購買意欲が向上する要因が見当たらない。
		スーパー（経営者）	・店を始めて十数年経つが、これまでで最悪の売上、利益となっており、これ以上悪くならない。
		スーパー（経営者）	・春になるにつれて灯油代の支出は少なくなるが、商品の値上げは更に拡大するため相殺されて全体では変わらない。
		スーパー（店長）	・毎日来店していた客が週に2～3回になるなど、来店頻度が低下している。また、ポイント3倍デーなどに集中している。これらの傾向は生活防衛のためであり、今後もこの傾向は続く。
		スーパー（店長）	・ガソリン価格が高止まりしていることが、スーパーの売行きに影響している。また寒冷地でもあり、異常なまでの灯油価格高騰により、客は食費を削らざるを得ない。ガソリン価格が下がるといふ予測も無く、景気が良くなる要素は見当たらない。
		スーパー（総務担当）	・食料品の原産地表示への関心は高まり、安全安心への消費者の目は一層厳しさを増してくる。購買動向は、しばらくは中国産品以外へのシフトが進む。
		コンビニ（エリア担当）	・様々な商品が値上がりしており景気が良くなるとは思えないが、これ以上悪くならない。
		コンビニ（店長）	・春になり暖房費が軽減される分ほかの消費に回ればいいが、必要の無い物は買わない、という最小限の消費構造になっているため、悪い意味で平行線をたどる。
		衣料品専門店（店長）	・生活防衛型の厳しい状態は続き、本格的な春物販売の時期にも客の意識は変わらない。
		衣料品専門店（総務担当）	・月々の使える金額が限られている状況では、し好品は我慢される傾向にある。
		乗用車販売店（経営者）	・寒波の影響による販売減少は3月にカバーできるが、4月以降は目新しいモデルも無く、ガソリン価格も高止まりしていることから、低燃費のコンパクトカー中心の需要になる。
乗用車販売店（経営者）	・年間最大の需要期を迎えるものの、株価の乱高下やガソリン価格の高止まりなどの状況では、個人消費は低迷したままで、厳しい商戦となる。車検整備でも、「最低限車検が通ればよい」という傾向が強まっており、利益を確保するためには相当の努力が必要となる。		
住関連専門店（経営者）	・現金の持ち合わせが少ないのか、消費者の財布のひもが固く、買い控えから消費が低迷している。この状態から抜け出すのは容易ではない。		
その他専門店〔呉服〕 （経営者）	・客の話には「収入が増えていないのに、石油などの値段が上がっている」というものが多く、景気回復の気配は感じられない。		
高級レストラン（経営者）	・現在の景気はそれほど回復していたわけではないので、この先落ちることも少ない。		

	一般レストラン（スタッフ）	・当月の業績も悪かったが、この先も悪い状態のまま変わらない。
	観光型ホテル（経営者）	・3月以降の入込は、低単価のシリーズものと学校関係のオリエンテーションなどがあり数字的には結構多い。官公庁関係の歓送迎会の予約も目に付く。しかしながら、周辺を含めた地域全体でみると、入込の右肩下がり傾向は歯止めが掛からない。
	観光型旅館（経営者）	・この先の予約状況をみると、企画募集ものの仮予約は目立っているが、一般団体、個人客の動向は前年並みかやや下回っている状況である。1か月前の見切りを早め、埋められるべき空き部屋は埋めていくように、涉外セールスは例年以上に積極的に実施する。
	タクシー運転手	・「就職先が無い」という話を客からよく聞く。職が無ければ景気が良くなることはないため、絶対的に悪い景気のまま推移する。
	通信会社（営業担当）	・新入学生、新社会人の需要があり、携帯電話の販売はこれから繁忙期を迎えるものの、4月以降は厳しいものと想定している。
	観光名所（職員）	・3、4月の予約状況は例年並みであり、フリー客の動向も現状はそれほどでもない。これからキャンセルの発生もあることからすれば、来客数が伸びる見込みは少ない。
	美容室（経営者）	・印象的には下げ止まっていないが、来客数の減少幅は一定になってきている。
やや悪くなる	一般小売店〔茶〕（経営者）	・必要な物の出費は切り詰めている一方で、旅行など娯楽に関しては大金を掛けている場合もある。この傾向が強まれば、市内にお金が回らない状況となる。
	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・身の回りでも経済的な余裕がどんどん無くなっている人を見ることが多くなっており、来客数が減る要因にもなる。ただし、現状でも消費者は既にかんりの節約生活をしているため、消費が落ち込む余地は限られている。
	百貨店（売場主任）	・原油高騰に伴い物価も上昇しているため、婦人服の買い控えは今後も続く。
	百貨店（広報担当）	・株価の下落、物価上昇により、消費者の財布のひもは固くなる。
	百貨店（経営者）	・原油高に伴う食料品や日用品の値上がりや、衣料品や身の回り品の購買意欲を減退させているものとみられ、今後もこの状況が続いていく。
	スーパー（経営者）	・ガソリン代は高値のまま推移しているほか、地場には優良企業も無く冷え込んでおり、地域経済の悪化傾向は継続する。
	スーパー（店長）	・食料品価格の値上げは今後も続くものとみられるため、来店頻度の低下、必要な物以外は買わないという買い控えの傾向は続いていく。
	衣料品専門店（経営者）	・客との会話からは「生活に関連する商品の値上げにより、洋服は今までのように買えなくなる」という話が多く聞かれる。
	衣料品専門店（店長）	・接客の現場からみれば、客はガソリン、灯油などを中心に物価の上昇を心配しており、春の衣替えでもスーツを積極的に買うような状況ではない。
	衣料品専門店（店長）	・団塊世代の退職に伴うスーツ需要の縮小は続くとともに、景気低迷に伴う買い控えも多くなる。
	乗用車販売店（従業員）	・生活にかかわる身の回りの商品が値上がりしているにもかかわらず、給料はなかなか上がらない。
	その他専門店〔パソコン〕（経営者）	・4月以降には各メーカーがこぞって値上げを予定しているため、販売業者としては消費者が望む価格帯に合わせられるかが今後のかぎとなる。値上げ価格に消費者が慣れるまでは厳しい状況が続くとみられ、当分の間利益が薄くなることは避けられない。
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・現在の価格体系であれば、この先少なからず倒産や廃業に追い込まれるガソリンスタンドが増えていく。何らかの対策が必要である。
	都市型ホテル（スタッフ）	・今後ますます競合他社の進出があり、過当競争が激化していく。
	都市型ホテル（スタッフ）	・様々な物の価格が上がっているが、それらを販売価格に上乗せできない状態が続いている。今後も諸物価の上昇は続くものとみられ、先行きは厳しくなる。
遊園地（経営者）	・物価の上昇が本格化してくれば、家計への影響が大きくなる心配がある。	

	悪くなる	商店街（代表者）	・高齢者の客層が多い商店街であるが、その姿も少なくなっている。原油高騰に由来する食料品の値上げが続けば、買い控えはこれまで以上に深刻になる。
		商店街（代表者）	・物価が上がり収入が減るとい将来像に、消費者の節約ムードが高まる。
		一般小売店〔雑貨〕（企画担当）	・個人所得の上昇が将来にわたって見込めず、一方で身の回りの商品価格はじりじりと上がっている状況であり、個人消費は非常に厳しい局面を迎える。
		スーパー（経営者）	・食料品などの値上げは4月以降第2段の動きも予想されるなかで、個人の可処分所得は減っている状況にあるため個人消費が上向くことはあり得ない。業界では競争が激しさを増しており、状況は更に厳しくなる。
		スーパー（店長）	・中国産冷凍食品の問題や偽装問題に加え、原油高に伴う買い控えもあり、必要な物しか買わないという購買動向に拍車がかかる。
		コンビニ（経営者）	・ここ3か月の売上動向は、前年同月比マイナス14%、15%、16%となっており、来客数も前年同月比96%、95%、94%と漸減傾向が続いている。
		衣料品専門店（経営者）	・原油高や食料品など諸物価が値上がりしている一方で収入は増えておらず、可処分所得は減っている状況にある。それ以外のところで良くなる要因も見当たらないことから、しばらくは景気が悪い方向に進む。
		乗用車販売店（経営者）	・来客数、販売台数、単価共に減っている状況は自動車業界全体の悩みでもある。各メーカーが新型車を次々に投入しても、しばらくは業績不振が続く。
		その他専門店〔酒〕（営業担当）	・これから更に様々な分野で値上げ、再値上げが見込まれており消費の減退を招くことから、適正な販売価格が実現するというメリットを考慮しても、全体的には景気が後退する。
	一般レストラン（経営者）	・カウンターの客の会話からすれば、年金問題や増税の話題など一般人の将来に対する不安は大きくなっているようであるが、消費意欲を増進するような話題は無い。	
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	広告代理店（経営者）	・今夏以降に大型商業施設がいくつか開業するため、プレキャンペーンを含めた広告投下が期待される。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	・牛タンの原料はオーストラリア産、ニュージーランド産が9割を占めているが、アメリカからの輸入量が増えない限り状況は変わらない。
		輸送業（従業員）	・年度末に近いにもかかわらず、荷動きに変動がみられない。このような状況では、数量の増加は見込めない。
	新聞販売店〔広告〕（店主）	・1、2月と下降してきた状況が反転する材料も無く、しばらくは「やや悪い」状況が継続する。	
やや悪くなる	農林水産業（従業者）	・前年の農業収入が減少したことから、今期の収入が得られる8月ごろまでは、農機具や生産資材などに関する支出も抑制される。	
	農林水産業（従業者）	・ビニール、鉄製品などの農業資材や化成肥料、燃料の価格高騰などで、経費増大が予想される。	
	食料品製造業（経営者）	・漁獲枠の削減により4月ごろから原料コストが大きく跳ね上がる見通しである。いかにコストを吸収していくかが大きな問題となっている。	
	食料品製造業（総務担当）	・原材料は品薄、値上がりが見込まれること、また中国産の食品に対する不信、不安から、加工食品離れが進む心配がある。	
	出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・株式市場の低迷が心理的に影響している。またガソリン価格も高いままである。全体的に景気の悪化を懸念する雰囲気となっており、企業も節約志向を強めているためチラシ印刷などの受注量に影響する。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・新年度に向けての受注量が少なく、原材料価格は上昇しているがコスト競争はますます激しくなる。仕事量減少の不安は雇用にも悪影響を与えるおそれがあり、状況は一段と厳しさを増す。	
	電気機械器具製造業（企画担当）	・自社製品に関しては低位安定であるがこれ以上の悪化は想定していない。しかしながら、親会社の製品は状況が更に悪化する方向であり、マクロ的には減速感が高まる不安がある。	
	建設業（企画担当）	・新聞等で企業誘致に伴う投資計画が明らかになっているが、一部の限定された地域であり、景気を押し上げるまでのインパクトは無い。	
	輸送業（経営者）	・各種商品の値上げによる影響が拡大することにより、取引先の動向を始め、物流の縮小につながる懸念がある。	

		<p>通信業（営業担当）</p> <p>その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）</p>	<p>・新規需要を探してはいるが、ユーザーサイドは依然として原油高などの景気の懸念材料が重く感じられているようであり、これといった打開策が見出せないでいる。</p> <p>・ビールや麦焼酎の値上げの影響が大きい。その他、様々なコストアップがあり、積極的な酒類の消費は見込めない。</p>
	悪くなる	<p>一般機械器具製造業（経理担当）</p> <p>広告業協会（役員）</p> <p>その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）</p>	<p>・自動車部品については、急激な円高による輸出環境の悪化、及び自動車のモデルチェンジに伴い部品の原価率が上昇していることから、採算性が悪化する。</p> <p>・この先の出稿状況を推測すると、支局、地方局は今年中に営業所の規模縮小などの見直しが図られるところも出る。</p> <p>・3月にはみそ、しょう油など大豆関係の商品の値上げがある。値上げ前には駆け込み的な需要があるが、値上げした後の3～4か月は商品が動かなくなる。また、中国産の食品が敬遠される傾向になっているが、国産品は割高であったり生産そのものが少なかったりするのが実情であり、商売をする上では大変である。</p>
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	<p>新聞社〔求人広告〕（担当者）</p> <p>職業安定所（職員）</p>	<p>・大型商業施設の求人が出始めている。夏にかけて複数の施設が開業する予定となっており、期待されている。</p> <p>・新規求職者の減少もあって、有効求人倍率は前月よりもやや上昇している。</p>
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・派遣の単価が低いのみならず受注数も減っており、ここ数か月で良くなる要素が無い。
		職業安定所（職員）	・新規求人数の減少幅が小さくなってきたという変化はあるものの、派遣請負求人への減少傾向に変化がみられず、総じて変わらない。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・求人広告を出しても応募が少ないため、広告を抑える動きになっており、今しばらくは我慢の時期となる。
		職業安定所（職員）	・県外資本のスーパーが売上不振から4月末での撤退を表明しており、多い場合200名近くの失業者発生も考えられるなど、先行きに不安がある。
職業安定所（職員）		・原油高、物価上昇など景気を見通す上では明るい材料が少なく、新規求人の動向も厳しい状況が続く。	
悪くなる			